

安曇野市農業農村振興計画推進委員会(第1回)会議概要

1	審議会名	安曇野市農業農村振興計画推進委員会(第1回)
2	日 時	平成31年2月22日 午前9時30分から午前11時15分まで
3	会 場	安曇野市役所 本庁舎3階 共用会議室306
4	出 席 者	中島完二委員、丸山秀子委員、池上文康委員、東本優子委員 松下順子委員、三澤育子委員、丸山大悟委員、丸山栄一委員 久保田敏彦委員、高橋修委員、平川邦夫委員、宮澤貞仁委員 須澤佳正委員、丸山昌則委員、高橋正光委員、小池晃委員 清澤栄三委員
5	市側出席者	大向部長、大竹課長、齋藤係長、平田係長、中村係長、丸山補佐 小林係長、佐々木
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成31年2月26日

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- (1) 開会 (大竹課長)
- (2) あいさつ (大向農林部長)
- (3) 委員長・副委員長の選任
- (4) 協議事項

- ①市農業農村振興計画推進委員について
- ②平成29年度 進捗状況の点検作業と点検作業の進め方
- ③意見交換

- (5) 閉会 (大竹課長)

2 協議の概要

- (3) 委員長・副委員長の選任

互選により委員長に中島完二委員、副委員長に丸山秀子委員

- (4) 協議事項

□事務局説明

第2次計画は203件の実施施策がある。この項目についてAからEの評価をしているが、C、D、Eの評価がついたところについて説明をさせていただきたい。

□「稼ぐ」農産物直売所の積極的な活用

以前には直売所連絡協議会が主体となって、各直売所の周遊性を高めるためスタンプラリーを企画し実施した経過がある。集客面において一定の効果はあったが、さらに各直売所の特色を打ち出せるような企画を想起する必要がある。各直売所が連携して取り組めるような事業を検討している。

取組状況にあるとおり、冬場のハウス活用は労力や時間がかかるため、効率的ではない状況がある。

□「稼ぐ」体験や観光を取り入れた農業経営の推進

29年度は市内で取り組まれている体験メニューの把握に留まった。今後、これを基にして、まだ取り組まれていない体験メニューの開発など、滞在型観光のあり方などを研究していく。

農家民宿の受け入れ農家向けに市内の体験メニューをまとめたパンフレットを作成した。今後、これを基に、ホームページなどで情報を共有できるシステムを構築していく予定。観光部局とも連携しながら進めていきたい。

□「守る」地域農業振興の中核となる組織、リーダーの育成

地域の農業委員などに、プラン作成の趣旨など周知を実施する。

農業後継者の配偶者も含めた方を対象者に、後継者交流会などの開催や、人・農地プラン検討会での情報提供をしていきたい。

□「守る」職農教育の推進

小中学校にとっては限られた学習時間の中で、新たに農業に関する授業の時間を設けるのは難しいとの声も聞いている。各学校の状況を踏まえ、実施可能な農業体験メニューなどを研究していく。

□「守る」後継者・新規就農者の確保・育成

ホームページの作成に向け準備中、各種補助事業の一覧の作成に向けて、準備した。

経営意向調査などにより、規模縮小農家を調査し、新規就農者へ情報提供していきたい。

定年帰農者など多様な方への情報提供などの方法を検討していきたい。

各多様な農業形態があるが、交流会などにおいて、各種団体などの周知を行っていききたい。

□「守る」荒廃農地対策

新たな支援制度を検討中。

□「生きる」農業学習の推進

各農業塾や体験農場では概ね受け入れ可能な人数には達している。若い世代が受講しやすい研修については、参加者のニーズに応えられるよう、受け入れ側（塾や農場）の体制を整えていきたい。

□「生きる」環境にやさしい農業の推進

松本農業改良普及センターから講師を招き「環境にやさしい農産物栽培研修講座」を開設した。これから進めたい。

再生マルチは高価。廃プラスチックは中国で輸入を禁止している。処分について問題になっている。資材を有効活用することを研究したい。

□「部門別振興方針」果樹：ぶどう

県で開発したクイーンルージュ。皮ごと食べられる品種。栽培研究したい。

□「部門別振興方針」野菜：スイートコーン

普及センターやJA指導員による今後の生産拡大を期待する。

<委員の主な意見>

【ブランド力の強化】

- ・ワイン用ブドウのブランド化を考えている。市として支援を考えたらどうか。
- ・日本酒の輸出とあるが、ワインも輸出したらどうか。
- ・一定の栽培基準でやって量を生産していくのがブランドだと思う。
- ・G I の取得について、わさびについては進んでいる。
- ・安曇野市はGAPの取組をやるべきと思う。
- ・県内だけで消費するのではなくて、県外、海外へもブランドを売り込む。次の世代が農業をして米を作り安曇野をPRしてくれると購買につながると思う。

【荒廃農地対策について】

- ・水田等が荒廃しない対策を考える必要がある。
- ・人農地プランは5年先を見通したプランを真剣に考える。
- ・少子高齢化が進むので、AI 等利用して少人数でできるようになって欲しい。

【生産基盤整備について】

- ・夏秋いちごの冷凍設備の整備を JA と一緒に取り組んだらどうか。
- ・鳥獣の利活用の検討を。きちんと処理し、多くを流通させ、安く食べさせる方法の検討を。
- ・黒星病など病気が入ってこないような対策を考えて欲しい。
- ・病害虫の対策として、普及センターや JA や市が協力して対応して欲しい。

【米について】

- ・安曇野市の直売所の方に PR を兼ねて米を使ってもらうことも大事。
- ・安曇野の米は、臭いが良く、ねばりがあって甘味があっておいしいという評価がある。
- ・GAP や GI 取得の検討を。
- ・ある程度の価格にしてブランド化していく方がよいのではないか。

以上